

分野	教育内容	特記	必修 選択	授 業 科 目	区分	単位 数	科目 時間	1年次		2年次		3年次	
								前	後	前	後	前	後
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活情報リテラシー 管理情報と経営情報と人間 情報と社会		必修	コンピュータ演習	演習	2	30	30					
			必修	医学英語	講義	1	30		30				
			必修	統計学・研究法	講義	2	30				30		
			必修	人間発達学	講義	2	30	30					
			必修	トレーニング論Ⅰ	実技	2	30			30			
			必修	トレーニング論Ⅱ	実技	2	30				30		
			必修	障害者スポーツ概論Ⅰ	実技	1	30	30					
			必修	障害者スポーツ概論Ⅱ	実技	1	30		30				
専門 基礎Ⅰ	人体の構造と機能 及び心身の発達		必修	解剖・生理Ⅰ(骨・筋)	講義	2	60	60					
			必修	解剖・生理Ⅰ演習(骨・筋)	演習	1	60	60					
			必修	解剖・生理Ⅱ(神経・感覚器)	講義	2	60	60					
			必修	解剖・生理Ⅱ演習(神経・感覚器)	演習	1	60	60					
			必修	解剖・生理Ⅲ(内臓諸器官)	講義	2	60		60				
			必修	解剖・生理Ⅲ演習(内臓諸器官)	演習	1	60		60				
			必修	運動学Ⅰ	講義	1	30		30				
			必修	運動学Ⅱ	講義	2	30			30			
専門 基礎Ⅱ	疾病と傷害の 成り立ち及び 回復過程の促進		必修	生化学と栄養	講義	1	30		30				
			必修	臨床心理学	講義	1	30						30
			必修	精神医学	講義	1	30						30
			必修	整形外科学	講義	2	30			30			
			必修	神経内科学	講義	2	30			30			
			必修	治療技術(実技)	実技	2	60				60		
			必修	頸損・脊損	講義	1	30			30			
			必修	救急救命医学・画像診断学	演習	2	30				30		
基礎 専門Ⅲ	保健医療福祉と リハビリテーションの理念		必修	リハビリテーション医学概論	講義	2	30	30					
			必修	チーム連携	講義	2	30				30		
専門 Ⅰ	基礎理学療法学		必修	理学療法概論	講義	2	30	30					
			必修	日常生活動作学	講義	2	30		30				
			必修	病態運動学	講義	2	30				30		
Ⅱ 門 専	理学療法管理学		必修	理学療法管理学	講義	2	30				30		
専門 Ⅲ	理学療法評価学		必修	検査・測定法Ⅰ(関節)	実技	1	60		60				
			必修	検査・測定法Ⅱ(筋)	実技	1	60		60				
			必修	検査・測定法Ⅲ(神経)	実技	1	60			60			
			必修	検査・測定法Ⅳ(動作分析)	演習	1	60			60			
			必修	検査測定演習(認定実技試験)	実技	1	30		30				
			必修	理学療法総合演習(認定実技試験)	実技	1	30				30		
			必修	理学療法総合評価学(画像・評価学)	演習	1	30						30
専門 Ⅳ	理学療法治療学		必修	物理療法学	講義	1	30			30			
			必修	物理療法学演習	演習	1	30			30			
			必修	義肢装具学Ⅰ	講義	1	30			30			
			必修	義肢装具学Ⅱ	講義	1	30				30		
			必修	運動器理学療法学	講義	2	30				30		
			必修	運動器理学療法学演習	演習	1	30						30
			必修	神経障害理学療法学	講義	1	30				30		
			必修	神経障害理学療法学演習	演習	1	30						30
			必修	内部障害理学療法学	講義	1	30				30		
			必修	小児理学療法学	講義	1	30			30			
			必修	内部障害理学療法学演習	演習	1	30						30
			必修	総合理学療法Ⅰ	講義	4	120						
	必修	総合理学療法Ⅱ	講義	4	120							120	
専門 Ⅴ	地域理学療法学		必修	地域リハビリテーション	講義	1	30	30					
			必修	地域包括ケア	講義	1	30		30				
			必修	地域イノベーション論	演習	1	30			30			
専門 Ⅵ	臨床実習		必修	臨床実習Ⅰ(1週)	実習	1	45	45					
			必修	臨床実習Ⅱ(3週)	実習	3	135		135				
			必修	臨床実習Ⅲ(8週)	実習	8	360				360		
			必修	臨床実習Ⅳ(10週)	実習	10	450					450	

シラバス（授業計画書）

科目名（ 統計学・研究法 ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

研究とは、物事について深く考えたり調べたりして真理を明らかにすることである（大辞林 第三版：三省堂）。日々進歩していく医療の中で、研究に興味がないという人もいるが、新たな知識に基づく理論と技術の体系には研究が必須である。本講義では、専門家として他者の研究成果を活用するために、少なくとも研究論文を理解し、他者へ説明できるように学習する。また同時に、色々な統計解析方法に触れてみる

2 到達目標

- ・理学療法分野における、和文論文などの研究論文を読めるようになる（特に、図・表、結果が理解できる）こと
- ・興味のある分野の研究論文をまとめ、相手に伝えることができるようになること
- ・統計学の解析方法を学び、国家試験問題を解けるレベルになること

3 授業の方法

統計学の教科書および配布資料を用いて講義を行う

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

定期試験においては、統計解析方法、計算式など教科書にでてくる内容を主に出題します

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書にある演習問題にチャレンジする

7 使用教材，教具

リハビリテーション統計学 15レクチャーシリーズ：対馬栄輝・木村雅彦 責任編集，
（株）中山書店

8 学生へのメッセージ

我々の生活の中には、不思議な事象が数多く存在する。例えば、飛行機は鉄の塊だが、飛んでいるときには落ちないと信じることができる。また、全身麻酔による手術においても、術後必ず覚醒すると信じることができる。それは、科学的なリサーチの結果“科学的な根拠”に基づくプログラムに沿って物事を進め、間違いが起こらなかったことで確信が持てるからである。是非、統計学を通して、リサーチ（調査・研究）の面白さを学んでほしい。

9 教員氏名（ 金ヶ江 光生 ）

所 属（ 西諫早病院 総合リハビリテーション部 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (統計学・研究法)

回数	授業内容
1	統計学について
2	母集団と標本, 代表値 (平均・中央値, 最頻値) について
3	正規分布について (パラメトリック検定・ノンパラメトリック検定について)
4	帰無仮説と対立仮説について (第 I 種の誤りと第 II 種の誤り), 有意確率について
5	相関・回帰, 平均の差の検定について (t-検定)
6	分割表の検定について (χ^2 検定)
7	重回帰分析について
8	ロジスティック回帰分析について
9	研究デザイン・PECO について
10	各研究の利点と欠点・対象とバイアス (偏り) について
11	研究論文について (論文の検索方法を理解する)
12	研究論文について (論文選択・論文の内容を理解する)
13	統計に関する国家試験対策
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却, 解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ トレーニング論Ⅰ ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

授業は「健康運動実践指導者養成用テキスト」に沿って行い、健康づくりを目的とした運動プログラムを作成するための基礎知識を学習する

2 到達目標

- 1) トレーニングの原則と効果について理解し、各原則の重要性に沿ったプログラムを作成できる
- 2) 生活習慣病予防における身体活動の必要性を述べるができる
- 3) 有酸素性能力、筋力、平衡性、柔軟性の向上が日常生活にどのような影響を与えるかを理解する
- 4) レジスタンス運動とはどのような運動か理解する
- 5) エアロビクダンス運動とはどのような運動か理解する
- 6) 性・年齢などの諸条件を考慮した安全かつ効果的な運動プログラムを理解する

3 授業の方法

健康運動実践指導者養成用テキストに沿って行います

4 成績評価方法・基準

定期試験 70% 実技 30%

5 評価の際の特記事項

定期試験は、健康運動実践指導者認定試験に沿った内容を出題します

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を読み進め、テキストにあるDVDをしっかりと確認し、実演ができるように努力すること

7 使用教材、教具

主に健康運動実践指導者養成用テキストを使用し、適宜資料配付します。

実技の際には適したウェアを着用してください。

8 学生へのメッセージ

自ら正しいフォームを示し指導できることは運動指導者にとって大切なことです。積極的に授業に参加してください。

9. 教員氏名（ 川原洋一 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10. 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(トレーニング論Ⅰ)

回数	授業内容
1	健康づくりのための身体活動基準 2013, アクティブガイド
2	トレーニングの原則, 健康づくりのための運動プログラムの基礎
3	ウォームアップとクールダウン, 有酸素性運動と無酸素性運動の特性
4	有酸素性運動のプログラミング
5	レジスタンス運動の種類
6	レジスタンス運動のプログラミング
7	ウォーミングアップの実際
8	クーリングダウンの実際
9	エアロビクス特有の音楽, 動きを体感
10	音楽に合わせて基本的な動きを習得
11	基本的な動きを使ってキューイングの練習
12	動作スキルの向上 手本となる動きの習得
13	キューイングを使った指導の練習 小テスト 解説
14	全体の観察を行いながらのリードの練習 実技指導 小テスト 解説
15	定期試験
16	定期試験返却・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ トレーニング論Ⅱ ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

授業は「健康運動実践指導者養成用テキスト」に沿って行い、レジスタンスエクササイズや水泳・陸上運動について学習する

2 到達目標

- 1) 新体力テストの各項目と体力要素との関連を理解し、それらを実施できる
- 2) 体力測定結果の分析・評価・活用方法を理解する
- 3) レジスタンスエクササイズを筋活動様式に分類し、特徴や違いを説明できる
- 4) 自重、器具を利用したそれぞれの方法による運動種目を理解し、見本を示すことができる
- 5) 安全で効果的なレジスタンスエクササイズを行うための留意点を説明できる
- 6) 水泳・水中運動と陸上運動との違いを理解し、特性に応じた運動を示すことができる

3 授業の方法

健康運動実践指導者養成用テキストに沿って講義形式で授業を行います。レジスタンスエクササイズは実践も行います。

4 成績評価方法・基準

定期試験 60% 実技 40%

5 評価の際の特記事項

定期試験は、健康運動実践指導者認定試験に沿った内容を出題します。実技試験は、実際の資格取得する際の、運動項目を実演してもらいます。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を読み進め、テキストにあるDVDをしっかりと確認しておくこと

7 使用教材，教具

主に健康運動実践指導者養成用テキストを使用し、適宜資料配付します。

実技の際には適したウェアを着用してください。

8 学生へのメッセージ

自ら正しいフォームを示し指導できることは運動指導者にとって大切なことです。自ら見本を示せる実技能力と、特に集団に対する運動指導技術に長けた者となり、資格取得に向けて頑張ってください。

9 教員氏名（ 川原 洋一 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細 （ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (トレーニング論Ⅱ)

回数	授業内容
1	体力測定理論
2	形態及び体脂肪の測定
3	体力測定の実際
4	体力測定の評価
5	自体重負荷の基本的なレジスタンスエクササイズ 下半身
6	自体重負荷の基本的なレジスタンスエクササイズ 体幹
7	フリーウェイトを使用したレジスタンスエクササイズ 上半身
8	フリーウェイトを使用したレジスタンスエクササイズ 下半身
9	フリーウェイトを使用したレジスタンスエクササイズ 全身
10	体幹スタビリティエクササイズ
11	水中運動と陸上運動について
12	水中運動と陸上運動の効果・利点・問題点
13	水中運動の評価
14	水中運動の実際
15	定期試験
16	答案返却及び試験解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (運動学Ⅱ)

学科名 理学療法 科
学年 2 年

1 授業の内容

運動学は理学療法士が理学療法を行う上で基礎となる学問です。運動学Ⅱでは運動学Ⅰで学んだことをより深く学び、関節運動・動作（基本動作・歩行）を追求します。

2 到達目標

- ①関節運動を運動学的に説明できる
- ②動作観察から動作分析ができる
- ③歩行分析の方法がわかる

3 授業の方法

運動学の教科書をもとにプリント作成

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

適宜、理解度を確認するためにレポートや小テストを行うことがあります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

基礎運動学 第6版 医歯薬出版

動作分析 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 MEDICALVIEW

8 学生へのメッセージ

運動学Ⅱはより実践的な動作分析・歩行分析を学びます。実習や臨床に必要な報告書が書けるように頑張りましょう。自分で理解していることを報告書にすることは、他人に伝える手段を学ぶと共に自分で振り返るための手段になります。実習でも苦勞するところですので実践できるようにしましょう。

9 教員氏名 (川原洋一)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 理学療法科)

実務経験の詳細 (病院にて理学療法士として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 運動学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	寝返り動作の概要
2	寝返り動作の分析
3	起き上がり動作の概要
4	起き上がり動作の分析
5	起立・着座動作の概要
6	起立・着座動作の分析
7	歩行分析
8	歩行分析(疾患別：整形)
9	運動学習
10	歩行分析(疾患別：中枢)
11	基本動作
12	ウォーキング（普通歩き、速足）やジョギングの特性
13	基本的動作フォームを習得し、個人に合った正しいフォームでの快適な運動実践
14	動作分析レポート作成
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 整形外科学 ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

整形外科疾患で臨的に対応する機会が多い代表的な各関節疾患について、臨的的な内容を中心に解剖学、運動学、生理学に基づき、また病院での経験を通して、理学療法士として必要とされる病態・治療の解説を行い、実技を含め講義を行います。

2 到達目標

整形外科学の各疾患について解剖学、運動学、生理学に基づいた病態や治療法の基本的・応用的な知識を習得する。

3 授業の方法

標準整形外科学（第13版）およびパワーポイント資料を用いて講義を行います。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

積極的な質問やこちらからの質問の返答など授業への参加の程度を総合的に評価します。理解度を確認するためにレポートや小テストを行うことがあります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業内容について事前に教科書・資料等の予習復習をして下さい。特に、配布資料については十分復習し、わからない点については適宜質問するようにして下さい。

7 使用教材、教具

標準整形外科学 第15版 医学書院

8 学生へのメッセージ

整形外科疾患について実際の臨床場面での内容について触れることにより、教科書などで学んだ基本的な解剖学や運動学、生理学に基づいて病態を理解し、科学的根拠のある治療を展開できるように、興味を持って取り組んでもらいたいと思います。

9 教員氏名（ 大石 勝規 田中康明 ）

所 属（ 大石：こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

（ 田中：済生会長崎病院 ）

実務経験の詳細（ 両名とも病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 整形外科学 ）

回数	授業内容
1	肩関節疾患について
2	肩関節疾患の術後について
3	肘関節疾患について
4	手関節疾患について
5	脊柱疾患について
6	股関節疾患について
7	股関節疾患の術後について
8	膝関節疾患について
9	膝関節疾患の術後について
10	足関節・足部疾患について
11	わが国の現状と健康づくり施策、整形外科学概論
12	整形外科学総論(スポーツ外傷の疫学・メディカルチェック)
13	リハビリテーション、その他の治療、予防(スポーツ外傷)
14	整形外科学総論(先天異常、系統疾患、生活習慣病)
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (神経内科学)

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

基礎的な構造、仕組みを理解したうえで疾患による諸症状を学び、それによりどういった能力低下を呈すかを講義を中心として理解する。また、主な神経疾患とそのリハビリテーションについて、分類や成因、症候、治療方針について学習する。

2 到達目標

各種神経疾患の成因、症候、治療方針を説明できる。

3 授業の方法

教科書を基本に授業を進め、PCプロジェクターを使用したパワーポイントによる講義の他、講義内容に関連する資料を適宜配布致します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

定期試験は講義の内容以外は出題しませんが、自分の意見を述べる場面では積極的に自分の考えを発言しているかを考慮します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

不明な点は復習してください。毎回、前回の内容を復習する時間や質問する時間を作ります。

7 使用教材、教具

神経内科学テキスト（改定第5版）南江堂

8 学生へのメッセージ

専門用語も多いですが、一つ一つの意味をよく理解し病態の整理を行ってください。

9 教員氏名 (松永祐樹)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 理学療法科)

実務経験の詳細 (病院にて理学療法士として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (神経内科学)

回数	授業内容
1	神経内科学総論
2	神経診断学
3	脳血管障害 (1) 脳血管の分類 解剖と生理
4	脳血管障害 (2) 脳血管障害の疫学 分類について
5	脳血管障害 (3) 脳出血 脳梗塞の症状、検査、診断について
6	脳血管障害 (4) 脳血管障害の理学療法について
7	脳血管障害 (5) 脳血管障害の理学療法について
8	神経疾患各論 (変性疾患)
9	神経疾患各論 (脱髄疾患, 末梢神経障害)
10	神経疾患各論 (筋疾患, 神経筋接合部疾患, 脳腫瘍)
11	神経疾患各論 (脊髄、感染性疾患、脳性麻痺)
12	神経疾患各論 (外傷, 代謝・中毒性疾患)
13	神経疾患各論 (自律神経疾患, 機能性疾患, 認知症疾患)
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (治療技術 (実技))

学科名 理学療法 科
学年 2 年

1 授業の内容

理学療法に必要な運動学や解剖学的な基礎的な知識復習と、症状に対する解釈の糸口を見つけながら理学療法を展開して行くクリニカルリーズニングを学習する

2 到達目標

症状に対する分析ができ、さらに適切な理学療法のプランニングが出来るようになる。

3 授業の方法

PCプロジェクタを利用したパワーポイントによる講義の他、提示する症例に関連する分析をグループで実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、質問の返答、グループワークの積極性等を総合的に評価します。

6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

技術的な内容となるため、円滑にスキルができるために感覚やコツなどをしっかりとつかんでいきましょう。

7 使用教材, 教具

配布資料

8 学生へのメッセージ

実習で最も重要となる評価の集大成となります。今まで学んだ評価を復習しておいて下さい。

9 教員氏名 (田中 努)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 理学療法科)

実務経験の詳細 (病院にて理学療法士として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 治療技術 （実技） ）

回数	授業内容
1	クリニカルリーズニング概要
2	症例に対するクリニカルリーズニングの展開
3	腰部領域の障害に関わる解剖
4	腰部領域に関わる疾患の評価と治療方法の選択基準
5	股関節領域の障害に関わる解剖
6	股関節領域に関わる疾患の評価と治療方法の選択基準
7	膝関節領域の障害に関わる解剖
8	膝関節領域に関わる疾患の評価と治療方法の選択基準
9	足関節領域の障害に関わる解剖
10	足関節領域に関わる疾患の評価と治療方法の選択基準
11	肩部領域の障害に関わる解剖
12	肩部領域に関わる疾患の評価と治療方法の選択基準
13	脊柱領域の障害に関わる解剖
14	脊柱領域に関わる組織の触診, 評価と治療方法の選択基準
15	モビライゼーションに必要な解剖
16	モビライゼーションに必要な評価
17	関節の遊びについて
18	凹凸の方法について
19	四肢のモビライゼーション
20	ストレッチング概論
21	ストレッチング上肢
22	ストレッチング下肢
23	ストレッチング体幹
24	神経モビライゼーション概要
25	神経モビライゼーション検査
26	メディカルマッスルトレーニング下肢
27	メディカルマッスルトレーニング上肢
28	評価(整形テスト, 短縮テスト)まとめ
29	定期試験
30	答案返却, 解説
31	答案返却, 解説, 講義総括

シラバス (授業計画書)

科目名 (頸損・脊損)

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

脊髄損傷のリハビリテーションには急性期からの合併症の予防をはじめ、機能訓練、ADL の自立を経て社会復帰までの一連の流れにおいて、専門的な知識や適切な理学療法が必要とされる。本科目ではそれらを理解するための知識、実践的なアプローチ法など実技を含め学習する。

2 到達目標

頸髄損傷から不全損傷の病態およびその評価、急性期の合併症の予防策、損傷部位別のアプローチ法、家庭復帰までの理学療法を習得する。

3 授業の方法

指定教科書に準じた講義を中心に実施し、必要に応じて実技を交える。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特にありません。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画書に沿った予習と行った授業内容の復習をして頂きたい。

7 使用教材，教具

教科書：脊髄損傷理学療法マニュアル 第3版 文光堂

8 学生へのメッセージ

脊髄損傷は損傷部位や程度により症状が大きく異なる為、損傷部位別での症状、アプローチや獲得可能な動作、ADL、合併症を学んでいきます。また、装具や福祉機器の活用、住宅改修など環境面のアプローチなども多くの専門知識を必要とします。その中でまずは疾患の理解を深めていきましょう。

9 教員氏名 (三根 立己)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 理学療法科)

実務経験の詳細 (病院にて理学療法士として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (頰損・脊損)

回数	授業内容
1	総説
2	理学療法の評価 (症状と診断)
3	理学療法の評価 (障害の理解)
4	呼吸理学療法
5	急性期理学療法
6	回復期理学療法
7	基本動作 (寝返り、起居動作)
8	基本動作 (座位、起立)
9	移乗動作
10	立位・歩行
11	日常生活動作 (移動)
12	日常生活動作 (その他)
13	まとめ (理学療法評価)
14	まとめ (理学療法アプローチ)
15	定期試験
16	答案返却, 解説

シラバス（授業計画書）

科目名（救急救命医学・画像診断学）

学科名 理学療法科
学年 2年

1 授業の内容

救急救命医療を学ぶ（制度・役割・災害時を含む）
画像診断学を学ぶ（X-p・CT・MRI・エコーなど）

2 到達目標

救急救命医療を理解する
ICU・CCU などでの理学療法士の役割を理解する
画像診断に基づく評価を考えることができる

3 授業の方法

指定テキストを使用
適宜スライド・画像を提示する

4 成績評価方法・基準

定期試験100%

5 評価の際の特記事項

救急救命医療を体制を理解し、その中での理学療法士の役割を理解できる。
典型画像を理解しているかどうか。病名・症状を理解し、一般的な理学療法を説明できること。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

多くの画像を図書室の書籍やインターネット等を利用し見ること

7 使用教材，教具

リハビリテーション医療に活かす画像のみかた. 南江堂

8 学生へのメッセージ

理学療法士は診断をしません。医師の診断をもとに理学療法を展開していきます。
しかしながら、画像から情報を得て、理学療法を行うことはその限りではありません。
画像を理解し、医師とディスカッションできるようになることで、予後予測や理学療法を安全に進めることができるようになります。まずは正常画像をしっかりと見ることができるようになり、各疾患の典型画像を覚えていきましょう

救急医療における理学療法士の役割とリスク管理について理解してください

9 教員氏名（金ヶ江 光生）

所属（西諫早病院 総合リハビリテーション部）

実務経験の詳細（病院にて理学療法士として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (救急救命医学・画像診断学)

回数	授業内容
1	画像診断総論
2	脳画像 (CT)
3	脳画像 (MRI)
4	脳画像 (機能局在)
5	脳画像 (まとめ)
6	整形外科画像 (上肢)
7	整形外科画像 (下肢)
8	整形外科画像 (エコー)
9	整形外科画像 (まとめ)
10	内科画像 (胸部)
11	内科画像 (腹部)
12	内科画像 (エコー)
13	救急救命医学①
14	救急救命医学②
15	定期試験
16	まとめ・試験返却・解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (医学概論)

学科名 理学療法科

学年 2年

1 授業の内容

疾病・障害の成り立ち（病因と病態）から障害予防について、細胞の変化から学習する。特に、運動中止を判定すべき重要な病態を中心に、注意すべき自覚症状や他覚徴候を解説する。

2 到達目標

運動時に発生が想定される症状や、その発生要因となる基礎疾患について説明できる力、救急時の対応をシミュレーターで実施できる力を身につけさせる。

3 授業の方法

教科書、授業プリント、PC プロジェクタを利用した授業を実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 90% 小テスト 10%

5 評価の際の特記事項

小テストは授業が終了した内容を試験範囲として、予め通知した日程で実施する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って事前に教科書の予習をしておくこと。これにより、授業内容の理解が深まる。また復習で知識の定着がなされているかを確認するため、小テストを実施する。

7 使用教材、教具

健康運動実践指導者 養成用テキスト 財団法人 健康・体力づくり事業財団
配布プリント

8 学生へのメッセージ

正常像の知識がなければ病的状態は理解できない。生理学・解剖学の復習も並行して行うことが必要である。

9 教員氏名 (世羅 至子)

所 属 (長崎県立大学看護栄養学部健康科)

実務経験の詳細 (医師として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (医学概論)

回数	授業内容
1	身体症状の理解 (1) 発熱 (炎症の定義 機序 種類)
2	身体症状の理解 (1) 発熱 (体温調節機構 熱中症)
3	身体症状の理解 (2) 胸痛 (局所循環障害 血栓症 塞栓症 梗塞 浮腫)
4	身体症状の理解 (2) 胸痛 (全身循環障害 高血圧症 低血圧症 ショック)
5	身体症状の理解 (2) 胸痛 (免疫異常 アレルギー)
6	身体症状の理解 (3) 頭痛 (局所循環障害 充血 うっ血 出血)
7	心・脳血管疾患と生活習慣病 (糖尿病 高脂血症 メタボリック・シンドローム)
8	身体症状の理解 (4) 息切れ (喘息 慢性閉塞性肺疾患 COPD)
9	身体症状の理解 (5) 失神 (脳血流調節 貧血 鉄代謝障害)
10	身体症状の理解 (6) 振戦 (アシドーシスとアルカローシス 過換気症候群)
11	内科的急性障害の予防法
12	内科的慢性障害の予防法
13	バイタルサイン 運動中止の判定 (AED 等による救急蘇生法の実際)
14	手当の基本 (テーピング技法の基本)
15	定期試験
16	答案返却, 解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (チーム連携)

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

リハビリテーションには、保健、医療、福祉の3つの分野との連携が不可欠です。それぞれの分野で、援助方法や考え方、専門的な用語は異なりますが、多職種が同じ目標に向かって協働する中で、医療福祉職とのチーム連携のあり様を学びます。

2 到達目標

- ・対象者の情報を ICF を用いて整理できるようになる。
- ・他職種の専門性を理解し、理学療法士を目指す一人の人間として関わる全ての方とのチーム連携の在り方を考え、自分なりのイメージを持つことができる。
- ・相談援助技術職の一員として、自身のコミュニケーションを振り返る機会をつくる。
- ・模擬的なチーム(役割)をつくり、チーム連携を体験し、共有を図る。

3 授業の方法

PC プロジェクターを使用したパワーポイントによる講義の他、講義内容に関連する課題に対するグループワークを実施。

4 成績評価方法・基準

定期試験(記述) 80% レポート20%

5 評価の際の特記事項

定期試験は、記述形式で行います。授業態度は、授業中の姿勢、グループワーク中の発言などを含みます。

6 授業時間外学習(予習・復習等)の具体的内容

日常の中で、友人や家族の話を興味深く聞く練習をすることや、ボランティアとして地域の住民組織の活動に参加(例えば自治会単位での掃除)し、地域の方々と関わることをやってみてください。

7 使用教材、教具

適宜、配布資料を配ります。

8 学生へのメッセージ

対象者(患者や利用者)だけでなく、各専門職の方々も、我々理学療法士が担う役割や専門性について、大きな期待を持っています。それに応えられるよう、リハビリテーションを実施し、専門職としてできることをしっかり発信できるよう学びを深めていただきたいと思います。理学療法士の業務において専門職単独で発生、終了する業務は稀であり、質の高いリハを提供する上でもチーム連携は不可欠です。医療業界ひいては社会で自身の能力を発揮するためのイメージを養っていただきたいと思います。チーム連携はまず、その職種を知ることから始まると思います。今回の授業において、他の専門職の理解が深まるきっかけになれば幸いです。

9 教員氏名 (樋口健吾)

所 属 (西諫早病院在宅支援室)

実務経験の詳細 (病院にて理学療法士として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ チーム連携 ）

回数	授業内容
1	自己紹介, コミュニケーション, 接遇, ICF について
2	対人援助技術について
3	連携・協働について
4	多職種連携①総論
5	多職種連携①各論
6	グループワーク(多職種連携)
7	チーム連携(1) 概論
8	チーム連携(2) 各論
9	チーム連携(3) 各論
10	チーム連携の実際
11	グループワーク(事例検討1)
12	グループワーク(事例検討2)
13	リハビリテーション総合実施計画書を作成し伝える
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却, 解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 病態運動学 ）

学科名 理学療法科
学年 2年

1 授業の内容

臨床で見られる異常運動について、病態を踏まえた異常運動の解釈・評価および理学療法の実際を概説する。

2 到達目標

病態を踏まえた疾患の捉え方と理学療法の考え方を理解する。

3 授業の方法

教科書を用いて授業を展開していきます。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

各テーマに沿ってレポート作成や実技を行い学んでいきます。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

動作分析 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 MEDICALVIEW

8 学生へのメッセージ

我々の対象となる患者は、多くの場合何らかの運動学的異常を伴っており、また疾患によりその特徴は異なります。この運動学的異常を理解することは、患者の治療において必須の事項となります。動作分析とともに理学療法士としての臨床力に直結する科目です。理学療法士になった後も研鑽していく分野ですので、基本を押さえながら考え方を理解して、臨床実習で実践できるようになりましょう。

9 教員氏名（ 田中 努 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (病態運動学)

回数	授業内容
1	変形性膝関節症の病態・動作
2	変形性膝関節症の評価・治療
3	大腿骨頸部骨折の病態・動作
4	大腿骨頸部骨折の評価・治療
5	脊髄損傷の病態・動作
6	脊髄損傷の評価・治療
7	フレイル病態・動作
8	フレイル評価・治療
9	肩峰下インピンジメント症候群の病態・動作
10	肩峰下インピンジメント症候群の評価・治療
11	脳血管障害の病態・基本動作
12	脳血管障害の歩行
13	脳血管障害の評価・治療
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 理学療法管理学 ）

学科名 理学療法科

学年 2年

1 授業の内容

理学療法士は多職種チームの一員として職務を遂行しています。さらに、医療保険制度や介護保険制度、教育など時代の変化に合わせるための施策の変更に素早く適応する対応力や、積極的に関与していくマネジメント力が求められます。働くうえで必要な制度や職業倫理を理解し個々人が社会人としてのマネジメント力を身につけることが必要となります。

2 到達目標

- ・理学療法士に求められるマネジメント力について制度を理解したうえで、人間関係の構築の大切さを共有する。
- ・職場や組織におけるマネジメントと、リーダーシップやコミュニケーション能力についての意識を高める。

3 授業の方法

講義形式

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

適宜、講義内容をまとめるレポートや小テストを行うことがあります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書や授業で配布する資料の予習・復習により、知識の定着を促してほしい。

7 使用教材、教具

PTOTST リハビリテーション管理学 第1版 医学書院。

8 学生へのメッセージ

学生として理学療法士として、一人の社会人として身につけておかなければならない人間力を改めて一緒に考える機会になれば良いと思います。

9 教員氏名（ 大石勝規, 小泉徹児 ）

所 属（ 大石：こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

（ 小泉：十善会病院 ）

実務経験の詳細（ 両名とも病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 理学療法管理学 ）

回数	授業内容
1	学生として求められる倫理
2	理学療法士に求められる専門職としての職業倫理
3	リーダーシップ
4	コミュニケーション能力
5	社会保障制度、医療保険、介護保険制度
6	病院組織における業務管理と人材管理・教育
7	他職種連携
8	組織・職場のマネジメント
9	ハラスメント
10	理学療法士協会組織について
11	理学療法士の身分と職域の拡大
12	地域連携、地域ケア会議
13	リスクマネジメント
14	養成教育と卒後教育
15	定期試験
16	答案返却・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 検査・測定法Ⅲ(神経) ）

学科名 理学療法 科
学年 2 年

1 授業の内容

検査測定の意味，目的，一般的原則を理解するとともに，中枢性神経疾患の病態や神経学的及び運動学的特色を踏まえ，正確な情報を収集する手技と知識を実技中心に学習する。

2 到達目標

個々の神経学的検査の意味や目的をきちんと踏まえ，適切な検査項目の選定，および正確な手技での検査の実施ならびに記録，さらにその結果の解釈ができる。

3 授業の方法

指定教科書に準じた講義を中心に授業を進める。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

授業の質問の返答，積極性なども重視します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

講義内容のまとめを小テスト形式で実施するので，予習および復習を徹底してもらいたい。

7 使用教材，教具

- ・病気がみえる 脳・神経 Vol. 7 MEDIC MEDIA
- ・理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ神経筋障害 MEDICALVIEW

8 学生へのメッセージ

検査測定は，対象者の病態や障害像を正確に把握するための基礎的な情報であり，理学療法をすすめるうえで大切な手がかりとなるのでその重要性を認識して，授業に臨んでください。

9 教員氏名 （ 田中 努 ）

所 属 （ ところ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (検査測定法Ⅲ (神経))

回数	授業内容
1	総説
2	反射・反応検査 (腱反射と表在反射)
3	反射・反応検査 (病的反射)
4	反射・反応検査 (まとめ)
5	感覚検査 (表在感覚, 深部感覚, 複合感覚)
6	感覚検査 (まとめ)
7	協調性検査
8	協調性検査 (まとめ)
9	筋緊張検査
10	筋緊張検査 (まとめ)
11	運動発達検査
12	運動発達検査 (まとめ)
13	片麻痺機能検査
14	片麻痺機能検査 (まとめ)
15	バランス検査
16	バランス検査 (まとめ)
17	高次脳機能検査
18	高次脳機能検査 (まとめ)
19	脳神経検査
20	脳神経検査 (まとめ)
21	運動麻痺
22	精神状態
23	運動麻痺, 精神状態 (まとめ)
24	意識障害
25	不随意運動
26	意識障害, 不随意運動 (まとめ)
27	実技および試験前復習①
28	実技および試験前復習②
29	定期試験
30	答案返却, 解説
31	答案返却, 解説, 講義総括

シラバス（授業計画書）

科目名（ 検査・測定法Ⅳ（動作分析） ）

学科名 理学療法科

学年 2年

1 授業の内容

日常生活における様々な動作について、バイオメカニクスの観点から動作を考察する。

2 到達目標

日常生活における様々な動作を、バイオメカニクスの観点から説明できる。

3 授業の方法

動作のバイオメカニクスに関する講義および動作分析の実技を適宜実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験：100%

5 評価の際の特記事項

適宜小テストやレポートでの理解度を確認することもあります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に予習・復習をしていくこと。

7 使用教材，教具

動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践
MEDICALVIEW

8 学生へのメッセージ

日常生活における様々な動作を、バイオメカニクスの観点から考察します。

9 教員氏名 （ 松永祐樹 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 検査測定法Ⅳ （動作分析） ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション・臨床における動作分析
2	動作分析の目的
3	力学の基礎
4	身体におけるてこ
5	寝返り動作の概要
6	寝返り動作のシーケンス
7	寝返り動作を可能にするメカニズム
8	寝返り動作の全体的な特徴の観察
9	寝返り動作の目視による動作分析
10	寝返り動作のメカニズムの評価
11	起き上がり動作の概要
12	起き上がり動作の動作を可能にするメカニズム
13	起き上がり動作の目視による動作分析
14	起き上がり動作のメカニズムの評価
15	起き上がり動作を阻害する因子の推論
16	起立・着座動作の概要
17	起立・着座動作のシーケンス
18	起立・着座動作を可能にするメカニズム
19	起立・着座動作の目視による動作分析
20	起立・着座動作のメカニズムの評価
21	起立・着座動作を阻害する因子の推論
22	運動連鎖
23	歩行動作の概要
24	歩行動作のシーケンス
25	歩行動作を可能にするメカニズム
26	歩行動作の目視による動作分析
27	歩行動作のメカニズムの評価
28	歩行動作を阻害する因子の推論
29	定期試験
30	定期試験 解説
31	理学療法士による動作分析のまとめ

シラバス（授業計画書）

科目名（ 理学療法総合演習（認定実技試験） ）

学科名 理学療法 科
学年 2年

1 授業の内容

病院・クリニック・施設において、実習教育者の教育のもと患者様・利用者様とかかわり、学内で学んだ知識・技術を実践できるように演習を行う

2 到達目標

- (1) 専門職としての適性およびふさわしい態度を身につけることができるようになる。
- (2) 対象者本人からの情報収集ができるようになる。
- (3) 安全性とリスク管理に配慮できるようになる。
- (4) 対象者に即した検査・測定方法を選択し、実施することができるようになる。
- (5) 情報収集・検査・測定の結果を適切に記録し、内容に信頼性を持たせることができるようになる。
- (6) 得られた情報から問題点を抽出し、統合と解釈を行うことができるようになる。
- (7) 治療目標（ゴール）を設定することができるようになる。
- (8) 治療方法（理学療法プログラム）について立案することができるようになる。
- (9) 理学療法関連業務を経験する。
- (10) 理学療法経過記録の作成、報告を経験する。

3 授業の方法

実技を中心に行っていきます

4 成績評価方法・基準

実技試験 60% レポート・授業態度 40%

5 評価の際の特記事項

適宜課題レポートや学習記録などを提出し、その内容も考慮して学科内で評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習教育者の課題・デイリーノート・理学療法評価学・関節可動域訓練・徒手筋力検査法・理学療法治療学

7 使用教材，教具

標準理学療法学 専門分野理学療法 臨床実習とケーススタディ第3版 医学書院

8 学生へのメッセージ

理学療法士になるための総合演習です。日頃の学校生活の経験を生かして、さらに自ら学ぶ姿勢を持ち理学療法士になる準備をしましょう。

9 教員氏名（ 大石勝規 松永祐樹 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 両名の教員が病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 理学療法総合演習（認定実技試験） ）

回数	授業内容
1	理学療法士になるにあたっての心得
2	コミュニケーションスキル
3	骨関節障害の理学療法評価
4	骨関節障害の理学療法治療
5	骨関節障害のまとめ
6	内部障害の理学療法評価
7	内部障害の理学療法治療
8	内部障害のまとめ
9	中枢神経障害の理学療法評価
10	中枢神経障害の理学療法治療
11	中枢神経障害のまとめ
12	神経筋系障害の理学療法評価
13	神経筋系障害の理学療法治療
14	神経筋系障害のまとめ
15	実技試験
16	フィードバック，解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 物理療法学 ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

物理療法学は、理学療法において運動療法とともに2大治療技術とされる。物理療法学は、生体がもつ「自己治癒力」を高め、理学療法士が行う治療の大きな手助けとなります。物理療法学を学ぶことにより、臨床における治療の幅を広げることができるよう学習します。

2 到達目標

物理療法学の目的・分類を理解する。

各種物理療法の生理学的作用とそれに基づく治療目的、並びに適応・禁忌を理解し、各種物理療法学の実施方法を習得する。

3 授業の方法

PCプロジェクタを利用したパワーポイントによる講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 小テスト 20%

5 評価の際の特記事項

定期試験は、国家試験過去問題から出題する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を事前に読み進め、配布した資料で復習していくこと。

7 使用教材、教具

15レクチャーシリーズ：理学療法テキスト 物理療法学・実習（中山書店）

8 学生へのメッセージ

物理療法学を学習していくにあたり、基本的な生理学的知識の復習をしておいて下さい。

9 教員氏名（ 川原洋一 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (物理療法学)

回数	授業内容
1	物理療法の基礎
2	温熱療法：特性と適応・禁忌
3	温熱療法：超音波 ホットパック 特性と適応・禁忌
4	光線療法：レーザー 紫外線 特性と適応・禁忌
5	電気刺激療法：各種電気刺激療法の原理と生理作用光線療法
6	牽引療法：特性と適応
7	牽引療法：牽引療法の禁忌
8	寒冷療法：寒冷療法の種類，特性と適応・禁忌
9	小テスト 演習・解説
10	物理療法（温熱、光線、電気、牽引など）各種実技
11	マッサージ療法(上肢)
12	マッサージ療法(下肢)
13	リスク管理
14	水治療法，CPM，振動刺激療法の紹介，試験前対策
15	定期試験
16	答案返却，解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 物理療法学演習 ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

物理療法学で学んだ知識をもとに、実際の機械を使用しながら学んでいきます。また、実際の病院勤務での経験を通して、患者様に接する基本的な態度とリスク管理を学び、実践力を備えた人材へと成長を促していきます。

2 到達目標

物理療法の目的・分類を理解する。

各種物理療法の生理学的作用とそれに基づく治療目的、禁忌を理解し、各種物理療法の実施方法（オリエンテーション能力、コミュニケーション能力等）を習得する。

3 授業の方法

PC プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義、実際の機器を使用した実技を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 50% 実技 50%

5 評価の際の特記事項

定期試験は、実技試験を行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を事前に読み進め、配布した資料で復習していくこと。

7 使用教材，教具

1 5 レクチャーシリーズ：理学療法テキスト 物理療法学・実習（中山書店）

8 学生へのメッセージ

物理療法を学習していくにあたり、基本的な生理学的知識の復習をしておいて下さい。

9 教員氏名 （ 川原洋一 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細 （ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (物理療法学演習)

回数	授業内容
1	物理療法学の復習
2	温熱療法：特性と適応・禁忌 実技
3	温熱療法：超音波 ホットパック 特性と適応・禁忌 実技
4	光線療法：レーザー 紫外線 特性と適応・禁忌 実技
5	電気刺激療法：各種電気刺激療法の原理と生理作用光線療法 実技
6	牽引療法：特性と適応 実技
7	牽引療法：牽引療法の禁忌 実技
8	寒冷療法：寒冷療法の種類, 特性と適応・禁忌 実技
9	小テスト 演習・解説
10	物理療法 (温熱、光線、電気、牽引など) 各種実技
11	疾患に対する物理療法の考察
12	疾患に対する物理療法の統合と解釈
13	実技試験
14	実技試験 フィードバック 修正・演習
15	定期試験
16	答案返却, 解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (義肢装具学 I)

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

堀：義肢装具に対する総論，上肢装具などの各論を学ぶ。

高木：装具の構造や機能を理解する。装具の使用が身体に与える影響を理解する。

2 到達目標

堀：国家試験や実習に必要な義肢装具の基礎知識が説明できる。

高木：装具の継手機能の理解と基本的な構造，治療効果を理解する。

3 授業の方法

実際の義肢を用いて教科書に準じた講義を中心に実施し，必要に応じて実技を交える。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿って，事前に教科書の予習を行うこと。

7 使用教材，教具

・教科書 PT・OT ビジュアルテキスト義肢装具学 羊土社

8 学生へのメッセージ

堀：義肢装具学を学ぶことで，患者さんの ADL や QOL によりアプローチすることができます。基礎から学んでいければと思います。

高木：装具は，理学療法を行う上で重要なツールです。しかし，装着するだけで麻痺の改善や歩行能力の改善が得られるわけではありません。装具を理解することで，今まで学んだ基本的知識の理解も深まると思います。

9 教員氏名 (堀 泰輔 高木 治雄 川原洋一)

所属 (堀：いまむら整形外科医院，高木：貞松病院川原：こころ医療福祉専門学校)

実務経験の詳細 (両教員，病院にて理学療法士として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (義肢装具学 I)

回数	授業内容
1	装具学総論
2	末梢神経障害装具総論
3	末梢神経障害装具各論
4	整形外科的装具
5	側弯症装具
6	小児装具
7	関節リウマチ装具, 国家試験問題
8	下肢装具総論
9	下肢装具大腿
10	下肢装具下腿
11	対麻痺装具
12	体幹装具
13	靴型装具
14	車いす・義肢装具の給付制度について, 国家試験問題
15	定期試験
16	解答返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 義肢装具学Ⅱ ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

義肢装具学は、医師を中心とする理学療法士、作業療法士、義肢装具士、エンジニア、ソーシャルワーカーなどによるチームアプローチにより実施され、それぞれの職種に高い専門性が求められる。理学療法士においても、評価、適合判定、細かな修正やメンテナンス、義肢装具を使用しての機能訓練や歩行訓練・ADL 訓練などより専門的な知識や実践的な技術が必要となる。

本講では、義足を中心に演習や実技を交えて、臨床に即した基本的な知識や技術の習得を目指す。

2 到達目標

切断に関する医学的一般事項や各下肢切断の機能的特徴、また義足の種類別の特徴や注意点、チェックポイント、理学療法アプローチ法などを習得する。

3 授業の方法

実際の義肢を用いて教科書に準じた講義を中心に実施し、必要に応じて実技を交える。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

授業の質問の返答、積極性なども重視します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

講義内容のまとめを小テスト形式で実施するので、そのための予習および復習を徹底してもらいたい。

7 使用教材、教具

- ・教科書 PT・OT ビジュアルテキスト義肢装具学 羊土社

8 学生へのメッセージ

義肢装具は道具・器械が患者さんの身体の一部となることでその機能を最大限発揮します。まずは、疾患についての知識、用いられる義肢道具の名称や特徴などの用語の理解、動作の理解に必要な身体機能など、基本をしっかりと学習していきましょう。

9 教員氏名 (川原 洋一)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 理学療法科)

実務経験の詳細 (病院にて理学療法士として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (義肢装具学Ⅱ)

回数	授業内容
1	総説
2	義肢装具療法の基礎知識
3	装具の分類(上肢装具)
4	装具の分類(下肢装具)
5	装具の分類(体幹装具)
6	靴型装具(クッションヒールなど)
7	靴型装具(ソールウェッジなど)
8	下肢装具適合判定基準
9	短下肢装具適合判定基準
10	下肢装具の部品(クレンザック, オフセット付きなど)
11	下肢装具の部品(背屈制御式, たわみ式など)
12	下腿・大腿義足ソケット
13	異常歩行
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 運動器理学療法学 ）

学科名 理学療法科

学年 2年

1 授業の内容

骨・関節疾患についてそれぞれの項目に対して、疾患の概要とそれらの具体的理学療法について概説する。

2 到達目標

骨・関節疾患に対して適切な評価項目を選択でき、臨床推論に基づいて治療を考えられるようになる。

3 授業の方法

教科書を中心にPCプロジェクタを利用したパワーポイントによる講義を実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験：100%

5 評価の際の特記事項

適宜小テストやレポートでの理解度を確認することもあります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に予習・復習をしてくることを。

7 使用教材，教具

理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学 MEDICALVIEW

8 学生へのメッセージ

運動器疾患は臨床現場において、ほぼ必ず遭遇します。また、臨床実習や国家試験においても必須の科目です。本科目を通して各疾患の病態と、それに則した理学療法の実施について学びます。

9 教員氏名（ 大石勝規 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 運動器理学療法学 ）

回数	授業内容
1	運動器疾患に対する理学療法の概論・運動器系障害総論
2	組織の治癒に関する総論・痛みと理学療法
3	変形性膝関節症の病態・理学療法的アプローチ
4	変形性股関節症の病態・理学療法的アプローチ
5	変形性脊椎症・腰痛症の病態・理学療法的アプローチ
6	脱臼の病態・理学療法的アプローチ
7	大腿骨近位部骨折・脊椎圧迫骨折の病態・理学療法的アプローチ
8	上腕骨近位部骨折・橈骨遠位端骨折の病態・理学療法的アプローチ
9	肩関節周囲炎・胸郭出口症候群の病態・理学療法的アプローチ
10	関節リウマチの病態・理学療法的アプローチ
11	筋・軟部組織損傷の病態・理学療法的アプローチ
12	筋・軟部組織損傷の病態とストレッチングを用いた理学療法的アプローチ
13	スポーツ障害の病態とストレッチングを用いた理学療法的アプローチ
14	まとめ（高齢者の骨折・肩関節周囲炎・胸郭出口症候群・関節リウマチ・スポーツ）
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (神経障害理学療法学)

学科名 理学療法科

学年 2年

1 授業の概要

神経障害を呈する疾患の基本的な評価・治療を学び、理学療法の統合と解釈を学ぶ。

2 到達目標

検査測定、理学療法評価、神経内科学の知識を統合して、神経障害を呈する疾患の理学療法が実施できる。病態・評価・統合と解釈・訓練プログラムの立案を自ら考えることができる。

3 授業の方法

パワーポイントや教科書および配布資料を用いて講義を実施していきます。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

試験内容は、病態・評価・統合と解釈・訓練プログラムの立案を問う問題で、自分の考えを記載する。

6 授業時間外学習

授業で学んだ内容を理解し、教科で関連知識を調べる。

7 使用教材, 教具

理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ神経筋障害 MEDICALVIEW

8 学生へのメッセージ

神経障害を呈する理学療法は、理学療法対象疾患のうちの1つで最も臨床現場で遭遇する疾患です。臨床実習を見据えて、自ら学ぶ姿勢で授業に臨んでください。

9 教員氏名 (松永祐樹)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 理学療法科)

実務経験の詳細 (病院にて理学療法士として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(神経障害理学療法)

回数	授業内容
1	脳卒中理学療法 (総論)
2	脳卒中理学療法 (各論)
3	脳性麻痺理学療法 (総論)
4	脳性麻痺理学療法 (各論)
5	パーキンソン病・症候群 (総論)
6	パーキンソン病・症候群 (各論)
7	筋ジストロフィー理学療法 (総論)
8	筋ジストロフィー理学療法 (各論)
9	ギランバレー症候群 (総論)
10	ギランバレー症候群 (各論)
11	二分脊椎理学療法 (総論)
12	二分脊椎理学療法 (各論)
13	末梢神経損傷 (総論)
14	末梢神経損傷 (各論)
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 内部障害理学療法学 ）

学科名 理学療法 科
学年 2 年

1 授業の内容

中泊：循環器疾患の身体所見・画像所見・病態の理解を中心に講義する。

三根：呼吸器障害の身体所見・画像所見・病態・理学療法を中心に講義する。

2 到達目標

内部疾患患者に対し治療・訓練を実施する際の身体所見と病態を理解する。

3 授業の方法

PC プロジェクターを利用した教材，教科書を使用した講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

授業態度，質問の返答など積極性等も重視します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

シラバスに沿って事前に授業で行われる内容は予習をしておくように。

授業ごとの復習を行い，演習を意識した学習をするように。

7 使用教材，教具

シンプル理学療法シリーズ「内部障害理学療法学テキスト」（改訂第4版）南江堂

8 学生へのメッセージ

内部疾患を持つ患者は増加しています。病態を理解して運動療法プログラムが作成できるように頑張りましょう。

9 教員氏名 (中泊 理美, 三根 立己)

所 属 (中泊：虹ヶ丘病院)

(三根：こころ医療福祉専門学校 理学療法科)

実務経験の詳細 (両名ともが病院にて理学療法士として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(内部障害理学療法)

回数	授業内容
1	内部障害理学療法概論 (リスク管理)
2	内部障害に必要な解剖学・生理学
3	身体症状と検査 (理学療法評価)
4	身体所見 (レントゲン・理学療法評価の実際)
5	病態の理解 (心筋梗塞)
6	病態の理解 (狭心症・心不全)
7	病態の理解 (閉塞性動脈硬化症・心臓弁膜症)
8	呼吸理学療法の概論
9	呼吸リハビリテーション (コンディショニング)
10	呼吸リハビリテーション (運動療法・ADL)
11	疾患について (COPD, 間質性肺炎等)
12	感染予防策
13	代表的な呼吸器疾患の理学療法
14	代謝障害の理学療法
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (小児理学療法学)

学科名 理学療法 科
学年 2 年

1 授業の内容

脳性麻痺などの発達障害を中心に小児整形疾患に対する理解を深め、理学療法評価および運動療法の基礎的概念を概説する。発達については反射・反応・姿勢・運動などの変化の意味合いを理解し、認知や社会面などの発達との関連にも触れながら講義を進める。事例を通して、障害のある子供と家族に対する理学療法の役割を知る。また、小児疾患を取り巻く家庭環境、医療、福祉、教育、就労などの社会的側面にも触れ、理学療法を展開する上での課題を捉える視点を学ぶ。

2 到達目標

小児期の特徴および、正常発達を理解することを通し、障害が発達に及ぼす影響とそれに対する理学療法の目的と方法を理解する。小児に接するためのレディネス修得を目標にする。事例を通して、定型発達と発達障害を学習し、障害のある子供と家族に対して理学療法の役割を知る。

3 授業の方法

講義、実技演習を実施しつつ、技術の習得に努める。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

臨床像の把握、典型的な治療例については、画像、VTR などの視聴覚教材を多用するため、動作分析や記録方法についてはあらかじめ復習しておくこと。

7 使用教材、教具

シンプル理学療法シリーズ 小児理学療法学テキスト 改訂第3版 南江堂
実習に必要な物品はその都度指示します。

8 学生へのメッセージ

小児領域は興味や関係が少ないと考えがちですが、地域医療の中では必ず必要になる知識です。また運動と発達との関係性を理解することで運動機能への理解が深まります。

9 教員氏名 (浦川 純二 三根立己)
所 属 (浦川：長崎県島原病院
三根：こころ医療福祉専門学校)
実務経験の詳細 (病院にて理学療法士として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (小児理学療法学)

回数	授業内容
1	小児理学療法総論
2	小児理学療法総論
3	運動発達 総論
4	運動発達 各論
5	運動発達に関連する反射・反応
6	脳性麻痺の障害像 総論
7	脳性麻痺の障害像 各論
8	脳性麻痺に対する理学療法評価 総論
9	脳性麻痺に対する理学療法評価 各論
10	脳性麻痺に対する理学療法 総論
11	脳性麻痺に対する理学療法 各論
12	脳性麻痺に対する理学療法 応用
13	その他の小児疾患に対する理学療法 総論
14	その他の小児疾患に対する理学療法 各論
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (地域イノベーション論)

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

イノベーション (革新) とは、「新しい技術やアイデアから社会的意義のある新たな価値を創造し、社会的に大きな変化をもたらす人・組織・社会の幅広い変革」である。地域における理学療法士の役割・実践を学び、グローバルな視点を養っていく。

2 到達目標

医療機関や介護保険事業所における理学療法士の役割に加えて、それらでは網羅できない地域ニーズに対応した理学療法士の諸活動を学び理解する。地域課題の抽出とその解決方法を検討するグループワークを行い、地域に根ざした理学療法士の新たな社会的意義やフィールド開拓といった先見性を養い、理解を深めることができる。

3 授業の方法

講義形式とグループワークを実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 70%，レポート 20%，授業態度 10%

5 評価の際の特記事項

理学療法士を取り巻く地域包括ケアシステムを理解する。

6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

授業内容の復習を中心に知識を深めること。

7 用教材, 教具

パソコン室の使用も予定しております。

8 学生へのメッセージ

すでに理学療法の職域は医療や介護の一端ではなく、産業保健や保険外診療、スポーツクラブ等へと拡大しています。そういった背景には、その分野に理学療法士の知識や技能が求められたからです。私達の生活圏においても、まだまだ理学療法士が活躍できる分野があると思います。本講義を通じて理学療法の視野を広げ、新しい理学療法の世界と一緒に創造していきましょう。

9 教員氏名 (高沢浩太郎)

所 属 (真珠園療養所)

実務経験の詳細 (病院にて理学療法士として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (地域イノベーション論)

回数	授業内容
1	地域イノベーションについて
2	地域課題の抽出とその解決について
3	スポーツ分野における理学療法
4	障がい児療育における理学療法
5	保険外リハビリテーションにおける理学療法
6	産業保健分野における理学療法 (1)
7	産業保健分野における理学療法 (2)
8	災害時支援における理学療法・動物に対する理学療法
9	国際協力における理学療法
10	地域づくりと理学療法 グループワーク (1)
11	地域づくりと理学療法 グループワーク (2)
12	地域づくりと理学療法 グループワーク (3)
13	地域づくりと理学療法 グループワーク (4)
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅲ（8週） ）

学科名 理学療法科
学年 2 年

1 授業の内容

病院・クリニック・施設において、実習教育者の教育のもと患者・利用者とかかわり、学内で学んだ知識・技術を実践する。

2 到達目標

- (1) 専門職としての適性およびふさわしい態度を身につけることができるようになる。
- (2) 対象者本人および他部門からの情報収集ができるようになる。
- (3) 安全性とリスク管理に配慮できるようになる。
- (4) 対象者に即した検査・測定方法を選択し、実施することができるようになる。
- (5) 情報収集・検査・測定の結果を適切に記録し、内容に信頼性を持たせることができるようになる。
- (6) 得られた情報から問題点を抽出し、統合と解釈を行うことができるようになる。
- (7) 治療目標（ゴール）を設定することができるようになる。
- (8) 治療方法（理学療法プログラム）について立案することができるようになる。
- (9) 理学療法関連業務を経験する。
- (10) 理学療法経過記録の作成、報告を経験する。

3 授業の方法

臨床実習現場にて実習を展開する。実習状況は実習教育者と連絡を取り進めていく。なお、実習地に専任教員が訪問し実習状況を確認する。

4 成績評価方法

実習規定終了60%・課題・学習記録20%・実習経験シート20%

5 評価の際の特記事項

既定の実習終了で60点・課題・学習記録20%・実習経験シート20%
臨床実習教育者のコメントを考慮して学科内で評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

デイリーノート・実習教育者の課題・理学療法評価学・関節可動域訓練・徒手筋力検査法・理学療法治療学

7 使用教材，教具

特に指定なし

8 学生へのメッセージ

理学療法士になるための総仕上げです。自ら学ぶ姿勢を持ち、謙虚に教育を受けて理学療法士としてのやりがいを肌で感じてきてください。

9 教員氏名（ 三根 立己 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (臨床実習Ⅲ (8週))

回数	授業内容
	【実習期間】
	2年後期 (1月～3月の期間で8週間)
	【実習時間】
	1週間45時間 (実習地：8時間×5日＋自宅学修：1時間×5日)
	合計8週間360時間 (45時間×8週)
	【実習場所】
	学校にて各学生を実習地に配置する

シラバス（授業計画書）

科目名（ 運動処方の実際（水中） ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

健康運動実践指導者養成用テキスト第8章（水泳・水中運動）を学習します。
実際にプールを使用し実技も行います

2 到達目標

実技を通して水泳・水中運動の特性について理解する。
指導実技試験の評価表に基づいた評価において、合格レベルに達することを目標とします

3 授業の方法

講義およびプールを使用した実技を行う。

4 成績評価方法・基準

実技の実演指導を見て、判断します。

5 評価の際の特記事項

出席状況も含みます

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

テキストの学習範囲となっている部分を読むことをお勧めします

7 使用教材，教具

主に健康運動実践指導者養成用テキストを使用し，適宜資料配付します

8 学生へのメッセージ

実際にプールを使用して実技を行います。
健康運動実践指導者では指導実技試験も行われますので，実際の試験評価表に基づいて実践的な練習を行います

9 教員氏名（ 川原洋一 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 運動処方の実際（水中） ）

回数	授業内容	
1	第8章 水泳・水中運動	水泳・水中運動の実際
2	第8章 水泳・水中運動	各水中レジスタンスエクササイズ個別練習
3	第8章 水泳・水中運動	各水中ウォーキング個別練習
4	第8章 水泳・水中運動	指導実技グループ練習
5	第8章 水泳・水中運動	プールで指導実技通し練習
6	第8章 水泳・水中運動	プールで指導実技評価